

2023年度 大成女子高等学校自己評価表

スクール ミッション	社会に役立つ女性の育成 ・多様化する現代社会を自分らしく生きる女性の育成 ・地域社会と協働できる自立した女性の育成。
教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。
重点目標	新学習指導要領の主旨を十分に理解し教育内容および方法の更新に専念する。 授業におけるICTの利活用に積極的に取り組む。 ネットへの情報公開を推進する。 部活動の活性化を図る。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合 評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン授業での指導、週1回の提出のほか、HRや他の教科での活用を促す。	B	A	手帳の活用について、積極的に活用している生徒と、そうでない生徒の差が大きい。1年生は週1度の提出をさせているが、2・3年生は生徒任せである。2,3年生担任から生徒へ活用を促す指導が必要であるが、そのためにも手帳利用の効果を担任に理解してもらう必要がある。 五軒小学校開放学級（学童保育）を補助するボランティアを復活させたい。 新課程生の調査書について、教員が活動を記載する欄がきわめて小さくなる。生徒は、行った活動を自ら報告書に記載することになるため、生徒が情報を蓄積できるよう担任からの積極的な指導が必要である。
	生徒が地域社会で活動する機会を増やし、キャリアを考えるきっかけや材料となるようにする。	多くのボランティアを紹介したり、セルフ型インターンシップなどへの取り組みを促す。1年生普通科・家政科のインターンシップを再開する。五軒小学校開放学級（学童保育）を補助するボランティア再開を検討する。	A		
	キャリアデザイン科との情報共有をさらに進め、生徒の成長や進路決定につなげる。	クラス担任がキャリアデザイン科の取り組みを把握し、進路選択に向けての生徒への声かけや、調査書・推薦書の内容充実に活かせるようにする。2年生からは活動を自ら報告書に記載することになるため、部活動の結果も含め、活動の記録をキャリアパスポートに丁寧にまとめるよう促す。	A		
家政科	専門的な知識と技術を生かし、地域社会に貢献できる人材を育成する。	検定の課題と評価について教員間で共有し研鑽を積む。生徒個人の能力に合わせ、実技等においてiPadを活用して個別指導を行う。 実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A	A	生徒個人の能力の差が大きいため、個々に合った指導を行った。また実習では、事故防止の指導を徹底したことで、安全と衛生に十分気をつけて実施した。 専門学校の出張授業やパティシエの方からの授業を受けることができ、ウェディングケーキを製作するなど、高度な技術を身につけることができた。 コンテストの応募については、生徒たちにアナウンスをし、積極的に応募するよう声かけをした。 昨年度同様、企業と連携して環境保護活動を行うことで、環境問題について理解を深めた。今後も活動を継続して行い、服育を通じて地域との連携を強化していく。 今年度は、学校家庭クラブ活動で行った募金活動で集まったお金の寄付を行い、地域福祉と連携をとることができた。来年度も地域社会や地域福祉の様々な分野で連携を図りたい。
	他者と協働しながら自ら考え行動し、社会に適応することが出来る力を養う。	企業が行う環境保護活動に参加し、服育を通じて地域との連携を強化する。 地域との協働により、社会に適応できる力を身につけさせる。	A		
	地域共生社会実現に向け、学校家庭クラブ活動や専門科目の授業で、水戸市社会福祉協議会と連携し、地域社会についての理解を深める。	コンテスト等への応募を推進し、生徒の意欲を育成する。	A		
	人々の健康を守ることへの誇りと自信を持ち学びに向かう力を持つ生徒を育成する	ICTを活用した学習習慣の定着を図る ・Classi・スクールワークによる課題・振り返り 朝学習、家庭学習時間の確保 教員間による学習指導要領についての学習会の実施や実践についての報告会の実施	A		
	看護師になるという目標を持ち一人ひとりを尊重し共に学ぶ態度を養う	一人ひとりを尊重した進路指導を行う ・家庭との連携 ・毎日の繰り返した生活指導 ・教育相談の活用	A		
看護科 (専攻科)	看護教育を通して望ましい看護観及び倫理観を育み5年間で看護師国家試験受験資格を取得できる	2023年度修了生全員の看護師国家試験合格 ・過去問題5年分の完全実施(学習アプリの活用) ・成績低迷者への面談・個別指導(定期的な学習計画) ・各教員への振り分け指導(ケースレポート担当者が継続して支援する) ・グループ学習の促進 ・各模擬試験の振り返りと弱点診断(業者に協力して頂き分析・検討し教員が共有する)	A	A	看護師国家試験合格率が97.4%にとどまった。個別指導の強化だけでなく精神的な安定を図るためのアプローチも必要である。早期から成績低迷者に対しては学習を確実なものとなるよう国家試験に向けた学習を推進する。また学習アプリの活用を進めることができた。 今年度は県内就職91.9%うち実習施設76.5%、進学者1名であり実習病院への就職が足りなかった。早期から目標を定め奨学金貸与を含めた活動を計画的にできるよう促していく。
	生涯にわたって看護を能動的に学び、専門性を高めることにより地域医療に貢献する生徒を育成する	地域に貢献する看護師の養成 ・県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職 ・病院説明会の実施	B		
教務部	本校グランドデザインを基に、教育活動および校務の円滑な運営を目指す。	・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。 ・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A	A	・スクールマスターの使い方の理解は進んでいる。年度更新の方法や、初期設定も教務係の中のPCに詳しい教員に依頼した。今後も初期設定ができる教員を増やしたい。 ・今回も教務係教員の働きにより次年度の準備を3月末日までに終了できた。次回もできるようにしたい。準備に必要な情報を早く戴けるとありがたい。
		・次年度選択授業の確定2月末まで ・教員研修の実施 年2回 ・次年度の準備終了 3月31日	A		
		・実施願の提出が行事実施日の前日または当日ということが数件あった。次年度は実施願の早期提出を実現したい。 ・スクールマスターの使い方について、教員の理解が進んでいる。年度更新の方法や、初期設定ができる教員を増やしたい。	B		

学習指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図り、授業改善に努めることで、生徒の学習意欲と、教員の指導力を向上させる。 ・「一斉講義型」の授業から、授業時間の多くを実習やディスカッション、生徒による表現活動など「現場で活動しなければ得られない価値」を提供する授業を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各教科で研究授業を実施する。(キャリアデザイン、礼法を除く) 2. 教員相互の授業見学を積極的に行う。 3. ICT活用に関する研修は実務を通して常に行い(On The Job Training)、教科内外で共有することで教員全体のスキルを向上させる。 4. 教科ごとに、教科の特性を踏まえた研修会を実施する。 	B	<p>全教科での研究授業の実施を徹底し、指導力向上、指導方法の共有のためにも未実施の教科を出さない。授業見学も随時可能であるが、業務の多忙化によるためか、教科内でも行われず、ICTを効果的にどう活用するか、常勤・非常勤の区別なく教科で研修する機会が必要である。</p> <p>9月実施実力診断テスト(1,2年)では、D3/1年普通科11名・家政科9名・看護科0名・2年普通科10名・家政科5名・看護科0名・3年普通科13名・家政科8名・看護科1名であった。下位層の学習支援は軌道に乗り、人数減を達成しつつあるが、中間層～上位層や成績特待生の学習意欲と成績の向上が課題である。</p> <p>各学年B1以上の生徒は実力診断テスト(記述)では1年6名、2年0名、3年1名、進研模試では0～4名である。キャリア特別進学コース/クラスの指導については、シラバスを工夫し、指導する内容に厚みを持たせて上位層に合わせた授業を行い、実力養成を図るべきである。課外授業の形態を変更したことで、学習の目標が明確になり、選択の幅が増えたことで、漢検・英検の合格者を増やすことができた。</p>
	<p>低学力層の底上げを図る。(ベネッセアセスメント国数英3教科・国語・数学・英語の4種類を指標とする)</p> <p>(1)D3ランクの生徒を、各学年とも普通科5名・家政科3名・看護科0名以下にする。</p> <p>(2)Dランクの生徒を、各学年とも普通科25名・家政科10名・看護科5名以下にする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. クラス担任や部顧問の適宜適切な声かけを促す。 2. ベネッセアセスメント対策の事前事後指導を徹底する。(個人別課題の配信なども利用する) 3. D3ランクの生徒対象学習会を継続実施し、学習の習慣化を図る。 4. 朝学習や隙間時間を利用した学習の習慣づけを行う。 5. 定期試験の再試験制度導入を検討する。 	A	
	<p>進路実績の向上のために、ベネッセアセスメントB1ランク以上(国公立大学可能レベル)の生徒の人数を、各学年とも普通科5名以上を目指す。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 模擬試験の事前事後指導の徹底を図る。 2. 部顧問と連携して適宜適切な声かけを行い、成績特待生の成績を共有し、学習時間の確保を依頼する。 3. ベネッセアセスメントで年間全てAランクの生徒を表彰する。(外発的動機付け) 4. 成績特待生対象の学習会や講演会を継続的にを行い、学習意欲の向上を促す。(内発的動機付け) 	B	
入試広報部	<p>大成の雰囲気や体験してもらえらる機会を拡大する。</p>	<p>大成のイメージ定着と教育内容の理解を広げる。</p>	A	<p>推薦入試や一般入試の特待生などの合格目安を募集要項に示したことが定着した。特に推薦での評定目安は一般推薦受験者増につながっている。天災時などのオンライン授業の評価も良い。大成女子のイメージは学力中間層を中心に定着してきており、今後も家政科・看護科の特性をさらに広報しつつ募集活動をすべきと考える。教育内容の広報活動や配布物は活用されているが、受験者や教員(塾含む)との接点は、まだまだ他校に比べて少ない。さらに広報活動を進めていく余地がある。</p>
	<p>県内各地域の塾への広報をさらに積極的に行い、生徒確保に努める。</p>	<p>広範囲の在籍生徒数の多い塾を中心に訪問対象塾にする。</p>	A	
	<p>さまざまな場面での具体的なiPad活用方法など特長を広く広報する。</p>	<p>できるだけ多くのイベントに参加し、積極的に広報する。</p> <p>普通科・家政科・看護科の3学科の特性をさらに広範囲(より広い地域)に広報する。</p>	A	
厚生部	<p>生徒の健康の保持増進を図る。</p> <p>職員の健康診断について結果の改善に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、換気を徹底させる。 ・感染症についての情報を発信し、注意喚起する。 ・生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。 ・「well being」(保健日より教員版)を年2回発行し、職員の健康に関する情報を伝える。 	B	<p>生徒不在時の照明、エアコンの消し忘れがあり、環境問題への認識を深めるなどさせながら節電に努めるよう指導していきたい。様々な学校行事が復活したことに伴い、委員会の保健・美化活動を通常時に近い状態に戻すことができた。次年度もさらに充実した保健・美化活動を目指したい。</p>
	<p>学校生活の環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 ・節電に努める。節電に協力してもらえるように、保健日よりClassi等を利用し呼びかける。 ・清掃時のチェック表を配布する。毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。 	B	
特別活動部	<p>1. ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① ホームルームや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回は皆の前で発表する。 ② 奉仕活動の意義を理解させ50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。呼びかけ運動実施・企画決定 	B	<p>挨拶運動などに積極的に取り組むことができた。今後は全校集会での生徒の発表の場を取り入れていきたい。</p> <p>コロナ明けの撫子祭でたくさんの招待者が来校した。生徒達は、それぞれ趣向を凝らして参加していた。</p> <p>各部活動も積極的に活動していた。物品や交通費の値上がりがあり、今後の運営を考えて行かなければならない。</p> <p>部活紹介など動画を使つての発表ができた。今後はさらに機器の利用法を学んでいきたい。</p>
	<p>2. 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 ② 学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。 	A	
	<p>3. 部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 ② 部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。 	A	
	<p>4. iPad他の通信機器を行事等で活用する方法を実践しながら模索する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の中で、動画の活用や、YouTubeなどを用いての実況中継の方法・ルールを模索する。 	B	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の将来の希望を実現するのに適した上級学校を選択し、入学できるよう援助する。 ・進路未定のまま卒業する者0名、普通科の大学・短期大学進学者60%(66名)以上、普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者15%(22名)以上、国公立大学進学者2名以上、私立高校経常費補助金特別加算に該当する大学への進学者1名以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の相談会や上級学校のオープンキャンパスを告知し、生徒の積極的な参加を促す。 ・進路資料室や校内掲示板を充実させ、生徒が情報収集しやすい環境をつくる。 ・入試制度や修学支援制度の最新の情報を、生徒・保護者にわかりやすく伝える。 ・ホームルーム等での活動を通して生徒に自身の適性を認識させ、受験校選択におけるミスマッチを防ぐ。 ・総合型・学校推薦型選抜に向けての、低学年からの系統的・組織的な指導体制を検討し、実施する。 	B	<p>進路未定のまま卒業した者4名(内就職未定者1名)、普通科の大学・短期大学進学者55.6%(60名)、普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者15.9%(23名)。国公立大学進学者2名(合格者3名)、私立高校経常費補助金特別加算に該当する大学への進学者1名。</p> <p>専門学校進学者が多かった。校内の進路ガイダンスなどで来校した専門学校、広告量が多い学校に引張られた感がある。低学年のうちに茨城女子短期大学で見学会をするなど、これまでとは異なる取り組みが必要である。また、学習指導部と連携し、コロナの学校を精選し、確実実施することも必要である。</p> <p>2学年からテキストを導入し、総合型入試、学校推薦型入試への対応を図っている。効果について今後、検証が必要である。</p> <p>就職者が例年になく多く、最終的に就職者20名となった。1名(家政科)は保護者の要望が生徒の実態と合わず、ハローワークとも連携を図ったが未定となった。保護者とのコミュニケーションをどのように図るか課題である。</p> <p>Classiで積極的に情報を共有した。また新たにボランティア等募集のためのグループを作成し、生徒が情報を見つけやすくなった。ポートフォリオへの入力内容は生徒により差があり、新課程入試に向けて課題である。</p>
	<p>生徒が自分の希望する職種や職場を選択し、就職できるよう援助する。</p> <p>就職希望者全員が内定(正規雇用)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークと連携し、生徒の希望に応じた就職先を紹介する。 ・課外授業やHR等での活動を通して、生徒に自身の適性を認識させ、職業選択におけるミスマッチを防ぐ。 ・課外授業を通して、履歴書の作成や面接・適性検査への対策を行う。 	A	
	<p>生徒・保護者との情報共有や、生徒の進路に対する意識向上、生徒の進路決定のために、ICTを積極的に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Classiの校内グループを通じて、生徒・保護者に情報提供を行う。 ・Classiのアンケート機能を用いて、キャリアパスポートを運用する。 ・ZoomやTeams等を使つてのガイダンスや、オンライン面接の対策を実施する。 	A	

生徒指導部	1. 基本的生活習慣の育成 ・カリキュラム・ポリシーに記載されている小笠原流礼法に沿った挨拶・言葉遣いなどの徹底を図る。 ・正しい学習態度を身につけさせる。 ・正しい制服の着用及び容姿を整えさせることに努める。	① 全ての教員による立哨指導での注意喚起を徹底する。 ② 校内巡視を定期的に行うことにより指導する。 ③ 授業開始・終了時に小笠原流礼法に沿った挨拶を各教員が指導する。 ④ オール大成で校内外において、制服の乱れた生徒(特にスカート丈、靴下)を見かけたら、躊躇せずその場で言葉をかけて直させる。 ⑤ 授業妨害及びこれに類する行為は、教員全員で毅然とした態度で臨む。 ⑥ 3年生の中には成人年齢に達した生徒がいるので、本校での躰が完成した形に導いていく。	A	校内・校外においてすこぶる乱れた服装の生徒は見受けられなかったが、寒くなってきた時にスカートの下にジャージを履いて登下校する生徒が若干見られたので、これをどのように指導していくかが次年度の課題である。また、スカートが年々短くなってきているのも気になる場所である。コロナ禍の習慣からマスクを着用する生徒が多くなるが、その下で化粧やピアスをしている生徒が指導の対象に上がってきた。担任レベルでの指導はもちろんであるが、学年集会などでの服装検査も復活することが肝要かと思われる。	
	2. 情報モラルの育成 ・SNS関連の生徒同士あるいはネット上におけるトラブルの発生を防止する。	① 情報科の授業だけでなく、関連するすべての授業を駆使して情報モラルの向上を図るための指導を実施する。 ② 危機意識の向上を促進するため、茨城県メディア指導員及び警察署職員による講話によって注意喚起を促していく。 ③ ホームルームでの指導やさまざまな日常の活動を通して、コミュニケーション能力の向上と他者への思いやりの心を育てる。	A		A 表面化したSNS関係の事案は2件と昨年よりは多くなったが、これも重点目標に対する方策を徹底しているからと考えられる。また何か新しい対策を講じないと次年度も増加することが予想されるので、これも次年度の課題の一つとして考えられる。
	3. 教員相互間の連携を保ちながら指導にあたる ・学年間の連携に留まることなく、学年の垣根を越えた教員相互の密接な関係構築によるスムーズな指導を実現する。	生徒指導会議を学年末に開催することにより、情報の共有を図るとともに、ひいては教師間での指導の差の是正につなげる。	A		毎日の学年主任との立哨指導の中で情報共有・連携を図ってきた。年度末までそれは継続された。次年度は教員間の年代を越えた共有を是非はかりたい。
メディア統括部	グラウンドデザインを基に「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。 教務部と連携し、校内情報を利用しやすくすることで、先生方の業務の効率化を図る。 学習指導部と連携して、リモート授業に対応できる環境と教職員のスキルの充実を図る。	学校案内や情報誌「ToSay!」、懸垂幕などのアナログ媒体と合わせて、ブログおよびSNSなどのデジタル媒体からも積極的にPR活動を行う。Instagramの活性化を第一に考える。 高校WEBサイト内の掲載内容を充実させる。	B	携帯からすぐに投稿できるInstagramは、毎日投稿を目標に、1学期終わりから行っていたが、授業の様子などを投稿することで、映りたくない生徒からの要望が出てしまい、毎日投稿ができなくなった。しかし、家政科の学校内外の情報を毎週発信したり、各部活動の様子を配信することで、1年間でフォロワーは約200人増加した。今後も学校内のことを発信していく。 ブログは今後も積極的にアップしていくが、各先生方が自由にアップロードをできるようにしたい。	
	図書館部	蔵書を充実させ、学習センターとしての役割を果たすことで、生徒が「自ら学ぶ」主体的な学習展開を可能にする。	・生徒職員が利用しやすい環境整備を行う。 ・スクールミッション、スクールポリシーに沿い、生徒の学力向上や精神的な豊かさを得ることにつながるよう、良書を選び提供する。 ・校務分掌や教科と連携して情報を提供する。 ・選書会議を行い、図書費を有効利用する。		A
		生徒図書委員会の運営を充実・発展させ、活発な活動を継続する。	・生徒図書委員の活動を支援する。 ・校外団体との連携活動、コンクール等への応募、出品の際の指導を行う。 ・水戸地区、中央地区、私学等主催の研修会に参加させる。		A
図書館管理システム「Enju」を活用して、書籍の管理と業務の更なる効率化を図る。	・Enjuによる管理システムを活用して利便性を図り、生徒や教員の利用促進に役立たせる。 ・システム稼働により司書業務の効率化を進め、レファレンスを充実させる。	B	B Enju導入が完了せず、利便性の向上という目標を達成できていない。実質的な作業を行う司書の研修を至急実施し、システム移行を行わねばならない。		
1学年	「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。	・小笠原流礼法を習得させ、心のこもった挨拶や場面に合わせて言葉遣いを身につけ、正しいコミュニケーションをとれるよう指導する。 ・校則を正しく理解させるために定期的に学年集会を行い、学年の共通理解のもと丁寧に指導する。 ・規範を守る必要性を理解させ、安易な欠席・遅刻・早退を減らすように健康管理に留意させる。 ・公共の場におけるマナーやルールを正しく理解させるため、日頃から声をかけたり、実例を示すことで規範意識を高めさせる。 ・主体的な学習態度を育成し、進路実現に向けての学習習慣を定着させる。 ・家庭学習を習慣化させ、ベネッセアセスメントの学習到達ゾーンD3段階の生徒を10名以内に作る。 ・国語テスト、英単語テストの年間成績優秀者について、学年人数の40%以上(約70名)になるよう家庭学習の徹底を図る。 ・定期的な面談を通し、生徒の家庭環境の把握に努めるとともに、生活の乱れや心理的な変化に迅速に対処する。 ・保護者との情報共有を密にし、共通理解と協力を得ながら生徒の育成に携わる。	B	A ・校則に関して、ほとんどの生徒が理解できていたが、スマートフォンの使用できる時間帯について、認識を誤っていたことで指導を受ける生徒が見受けられた。次年度以降、学年集会で徹底していきたい。 ・学習面では、ベネッセアセスメントでD3となる生徒が多数出てしまい、補習対象となった。また、週1回の補習に出ない生徒もあり、後日学年で対応したが、今後はこういう生徒への対策も必要であるとする。 ・国語テスト優秀者が44名、英単語テスト優秀者が28名であり、ともに目標を下回った。家庭学習だけでなく、普段の朝学習にもこれらの課題に取り組みさせて、優秀者の数が増えるようにしたい。 ・年度初めの面談、夏休みの三者面談、学年末における希望者との面談を通し、生徒や保護者の考え、および情報共有を図ることができた。これが、各生徒の充実した高校生活につながるよう、学年の教員全員で情報共有に努めたい。	
	「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、豊かな人間関係を構築させ、他者と協働し最善を尽くすことで自立心や思いやりの心を育てる。	・他者との関わり合いの中で自分を知り、相手の考えを理解し尊重する心を育てる。 ・遠足・スポーツフェスティバル・撫子祭などの学校行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感、他者との協働を行う心を育てる。 ・生徒会・部活動・委員会活動等を通して、与えられた役割に取り組みさせ、組織の一員としての自覚を持たせる。Classiでのアンケートを活用し、定期的に振り返りを行う。 ・生徒が主体的に活動できるよう、授業やホームルームで情報リテラシーを養わせ、コミュニケーションスキルを向上させる。	A		

2学年	「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ための能力を育てるために、主体的に学ぶ姿勢と、様々な「挑戦」と「貢献」に必要な学力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会やガイダンスを通じて、自己の適性や学問領域、職業に対する理解などを深めさせ、進路選択のために必要な学力を向上させると共に、メディアリテラシーを養わせる。 ・ベネッセアセスメントのD3段階の生徒をなくし、国語テスト・英単語テストそれぞれの年間成績優秀者を学年人数の30%(65人)以上になるように、家庭学習の徹底を図る。 ・各種検定試験や校外模擬試験を積極的に受験させ、自己の学力を客観的に知ることで、学習意欲の向上につなげる。 ・コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染拡大防止に努めさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との面談を通し、生徒の状況把握に努めると共に、オープンキャンパスへの参加を促した。3年次に向け、引き続き希望進路実現に向け働きかけたい。 ・学年末の成績優良者数は普通科62名(47.7%) 家政科は24名(58.5%) 看護科は14名(35%)。また国語テスト・英単語テストそれぞれの年間成績優秀者は学年人数の26%であった。成績向上に向け、家庭学習の定着させたい。 ・修学旅行、スポーツフェスティバル、ダンス発表会、進路ガイダンス等を実施することができた。 ・染毛・ピアス等で誓約書指導を行った。校則等の規則の遵守するよう継続的に働きかけたい。特にスカート丈・化粧の指導が課題である。
	「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指して、他者との関係の中で自己を成長させ、体験的な学習活動を通じて社会性を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原流礼法の学びを意識して行動させることにより、豊かな人間性とコミュニケーション力を身につけさせる。 ・スポーツフェスティバル、撫子祭、修学旅行などの学校行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会や部活動、委員会活動などを通して、積極的に周囲とのコミュニケーションを図り、自己の役割を全うさせることで、実行力と責任感を養う。 ・基本的な生活習慣を整えさせ、定着させることで、安易な遅刻や早退をなくす。 ・生活の乱れや心理的不安に起因する生徒の言動に対しては、迅速に保護者と連携し、丁寧に対応する。 ・校則の周知徹底を図り、違反した者については学年全体で丁寧な個別指導を行い、誓約書を伴う指導を減らす。 	A	
3学年	「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、主体的に行動させ、自己を実現させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習態度を育成し、学力の向上を図り、進路決定を実現させる。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンの生徒をなくし、Cゾーンへの底上げを図る。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数を学年在籍数の40%(約75名)を目指す。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの学校行事への参加を通して、連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩を指導することにより、責任感を養わせる。 ・挨拶・言葉遣い・時間の遵守・清掃を丁寧に行うなど、身に付けた基本的な生活習慣を実生活に活かせるように指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて主体的に学習する姿が見られ、個々の進路に対する目標を実現することができた。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンからCゾーンへ移行した生徒がいる。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数は、卒業生170名中、国語テストが30名、英単語テストが15名であり、該当者は体調管理とともに、意欲を持って学習をした結果である。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの行事では充実した活動を行うことができた。 ・生徒会、部活動、委員会活動では最高学年としての責任ある行動を取ることができた。 ・挨拶・言葉遣い・時間の厳守は進路決定に向けた活動を通して培うことができた。清掃においても生徒自身が進んで行うことができた。
	「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、集団生活の中で規律ある態度を養い、心豊かな人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「小笠原流礼法」を身につけさせ、自立した女性になるために大切な立ち振る舞いを、実生活に活かせるように指導する。 ・他者との関係の中で自己を成長させ、自立心や相手を思いやることのできる心を育てる。 ・校則に違反した生徒に対しては、丁寧な個別指導をする。 ・制服を正しく着用し、身だしなみを整えるよう、学年の共通理解のもとに指導を行う。 ・朝学習の内容を学年全体で常に見直ししながら、生徒が継続して学習できるようサポートする。 ・欠席や遅刻の多い生徒、生活の乱れが目立つ生徒には、保護者と連携してその対応をする。 ・ホームルーム活動や学校行事等を通して、協調性や他者の考えを尊重する態度を養う。 ・生徒が主体性を持って活動できるよう、学級活動や授業等を通して情報リテラシーを養わせる。 ・生徒の情報活用能力を育成するため、ICTを効果的に活用した教育活動を行う。 ・進路指導部と連携して、進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報を提供する。 ・推薦、総合型選抜方式の入試や、就職試験の対策の一貫として、面接練習を学年の教員全員で行う。 ・各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、自己の学力を客観的に見ることで、学習意欲を向上させる。 ・成人年齢の引き下げに伴う自己の置かれた環境の変化を理解させ、責任と義務を自覚して行動させる。 ・公共の場においてマナーやルールを守って行動できるよう、日頃から規範意識を高めさせる。 ・新型コロナウィルスを含む感染症対策を継続し、自己の行動に責任を持たせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として率先して行動させ、係や委員会、部活動においても、必要な仕事に取り組みさせることができた。自己の役割を果たし、リーダーシップを発揮できた者も多く、学校生活を充実させることに繋がった様子である。 ・進路決定への意識や緊張感が校則の遵守に繋がり、生徒指導の対象となるものはほとんどいなかった。服装などの軽微な違反者や、生活面に懸念のある生徒に対しては、その都度丁寧な声かけや指導を心がけ、保護者とのコミュニケーションを密にしたことで、大きな問題には至らずに済んだ。
国語	基礎的な学力を充実させ、表現力や理解力を養わせるために、新しい教材やICTを活用した指導方法について研究する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動促進のためにICTの利用方法の研修を行う。 ・NIEを学習活動に取り入れる。 ・論理的思考力を養う授業展開について研究する。 	A	ICT機器を活用した授業展開等について、教科で集会を開き、研究することができた。
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学科コースや生徒個人のレベル、進路希望に合わせて学習指導を行う。 ・単元毎に理解度を測り、学習到達度を確認する。 ・進路対策につながる3年間の計画的、継続的な学習活動を支援する。 	A	A
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して基礎力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習を習慣化させるために、定期的に課題を出し、基礎学力の定着を図る。 ・課外授業を通して、国公立入試に対応できる力を養成する。 	A	国語テスト等の機会に課題を出すことで、基礎学力の定着を図ることができた。冬季休業中の課外では、共通テスト対策の学習をさせることができた。
地歴	新課程の科目に対応し、時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。 ・iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。 	A	A
公民	新課程の科目に対応し、政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。 ・iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。 	A	A

数学	学習習慣を定着させる。	数学の宿題を定期的に配信する。勉強しやすい課題を精選する。テスト範囲と出題内容を明確にし、生徒が取り組むべき課題を主体的に把握しやすいように工夫する。 D3の生徒が出ないようにする。	C	B	定期的に宿題を出すことにより、勉強はしやすかったと思われる。D3の生徒は例年より多かった。勉強しなくても何とかかなるという雰囲気も蔓延しつつある。
	基礎学力の向上を図る。	学習支援センターの利用を促す。 プログラミング思考を身につけさせるために、まずは実際に手を動かして計算することを大切にする。演習を反復することにより計算の正確さとスピード向上を図る。	B		学習支援センターを放課後利用させる割合は高かった。計算力をより定着させる必要がある。
理科	科学的な思考力や判断力、表現力を育成する観点から、観察・実験などの結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す学習活動及びそれらを表現する学習活動を充実させる。	・ICT教材などを活用することで板書する時間などを減らし、年間の指導計画を見通して観察や実験などを十分に行い、生徒が結果を分析し解釈して自らの考えを導き出す機会や、それらを行うための時間を確保する。 ・教員間での情報交換の充実を図る。 ・新学習指導要領に合わせた指導方法・評価方法の研究を引き続き行う。	A	A	・ICT機器を活用した授業展開をすることで、大幅に板書する時間を削ることができ、生徒が毎回の授業で振り返る時間を作ることができた。 ・新学習指導要領に合わせた評価方法の研究については、引き続き行う。
保健体育	体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせる。社会に役立つ女性になるべく、社会生活における健康、安全に理解を深め、自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を身につける。	個々の運動能力に合わせ到達技能を設定し、タブレットを活用して全員がクリアできるように指導する。 種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。	B	A	全員クリアとはならず、もう少しやさしいレベルを設定する必要がある。 タブレットを使用し、撮った動画などをいかにスキル習得やスキルアップに役立てるかが課題である。
			A		
芸術	音楽・美術・書道の基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、主体的に表現活動に取り組みさせる。	・基礎的な演奏法や表現技法を習得させ、鑑賞能力を養わせ、表現活動に取り組みさせる。 ・ICTを利用して生徒の鑑賞の幅を広げ、教員の実技指導の充実を図る。	A	A	ICT機器を利用することで、各科目の鑑賞の幅を広げることができた。課題の提出、演奏や筆技の指導動画や個別指導、鑑賞の補足資料等にiPadを利用できた。今後も継続して指導力を向上させたい。
	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・校内で学習成果を発表する場を設け、表現活動に取り組みさせる。 ・校外のコンテストやコンクールへの参加を促し、その支援や技術指導を行う。	B		授業内での発表、文化祭での校内展示を行なったが、外部コンクール等への団体出品はなかった。機会を増やすことが取り組みへの意欲に繋がることもあるため、次年度は挑戦したい。
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を、iPadなどICTの活用を通して図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A	A	1.1年間を通して、学科として協力して指導ができた。デジタルペンシル動作環境が不安定で、指導に不具合がたびたびみられた。全体としてはきちんと指導できた。評定との扱いが今後の課題である。
	新しい指導内容や使用教材を有効活用し、基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	校内一斉英単語テストに加え、コースの特性や生徒の希望進路に合わせた語彙指導を実施する。	A		2. 新しい英単語テスト指導内容に変更し、より高い語彙力の向上が期待できる状況になっている。指導方法をさらに検討し、卒業時に十分な語彙力を身につけられるようにしていく。
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発を継続する。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を継続する。	A		3. iPadを用いた英語の授業については、moodleの利用やデジタルペンシルの利用方法の工夫など広範囲に渡ってきている。
家庭	「フードデザインコース」「ファッションデザインコース」の各コースにおいて、職業人としての知識・技能を習得させ深く学べる教育活動を展開する。	ICTを効果的に活用し、生徒の能力に応じた教材等を探究する。生徒一人一人の課題を把握し、多様な能力・適正、興味関心などに応じて指導助言する。 基礎学力の向上と、実技における基礎・基本の定着させる。	A	A	ICTを活用しながら、生徒の能力に応じた教材を探究した。来年度も情報活用能力を活かせるよう、ICT活用を身につけさせる。また、生徒自身の課題について、随時指導助言を行う。
	専門的な技能を習得し、地域社会において主体的に貢献できる人材を育成する。	プロフェッショナルの講師の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。生徒の活動を外部へ発信していく。	A		専門家や専門学校の出張授業を活用し、直接指導を受けることで、高度な技術を身につけることができた。今後もプロフェッショナルの講師の授業を積極的に取り入れ、外部へ発信していく。
情報	・情報社会と人間との関わりについて考えながら、新しい情報社会に対応するためのルールと情報モラルを理解する。 ・新学習指導要領に沿ってプログラミング、データ活用など基本的な情報技術を身につけさせながら、コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザイン能力を育てる。	SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身につくように、実例動画を活用して情報モラル指導を徹底する。 アルゴリズムとプログラムの意味を理解させるために、アルゴリズムやフローチャートの表記に興味関心を持たせる。Pythonを用いて、基本構造のプログラムを作成しながら、プログラミングスキルを習得させる。	A	A	今後も実際にあった事件などを取り上げ、情報モラルの指導を徹底させ、自分の問題として考えさせていきたい。Pythonを用いてアルゴリズムとプログラムの構造は理解できた。今後は、プログラミングのスキル向上と共通テスト対策が課題である。
			B		
看護	看護の体系的・系統的理解と関連した技術を習得し確かな学力の育成をする	基礎的な看護技術の定着 ・放課後の実習室利用率を60%以上に維持 ・主要基礎技術の確認試験の合格率を100% 基礎的な看護知識の定着 ・科目試験を再試験により合格する ・低学年より国家試験合格への意識づけ (国家試験問題集の朝学習の利用)	B	A	放課後の実技練習は37%であり1～3月の利用がなかった。しかし必要な時には練習をすることができていた。確認試験は100%の合格であり看護技術の定着が図れたと思われる。今後も自己学習の場としても放課後の実習室を活用していく。放課後の実習担当教員が入れない日も多くあるため、日程を精選しベットの稼働率をあげ効果的、効率的な活用が必要である。また知識の定着については朝学習や医学映像セレクトの積極的に活用していく。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。また、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させる。	学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、日常生活における立ち居振る舞いなど、礼法の基本を理解させる。	A	A	礼法の教科書やDVDを使用し、動作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。
キャリアデザイン	キャリアデザインⅡ・B各フィールドにおける本格的な探究型プログラム実施に向けて、監修団体等の指導のもと、地域など実社会との連携を大切に探究型プログラムの詳細を決定する。	1. 週1回のキャリアデザイン研修時間を確保し、科目、フィールドごとに全員で検討を行う。 2. 地域や外部団体の活動について、積極的に調査、研究を行う。 3. これまで以上に監修団体等との連携を密にする。	A	A	新たにアート表現フィールド、地域デザインフィールドで発表の場を設けることができ、それを新聞で紹介されるなど、これまで以上に実社会との連携を強化することができた。COVID-19が5類に移行されたことで、看護・医療フィールドでも実社会との連携を強化したプログラムにしていきたい。
	入試システムの変更に適切に対応し、キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	1. 総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、進路指導部と連携し、教科担当全員でフォローを行う。 2. キャリアデザイン科内で進路指導に関する研修を行う。	B		総合型選抜、学校推薦型選抜での受験に向けて、キャリアデザインⅡ・Bを中心に、学んだことを自身の言葉かつ上級学校の求める内容でプレゼンテーションできるようにすることが必要だが、現時点では1対1の指導が不可欠で教員の負担が非常に大きい。どのように行えば効果的に負担を減らせるか、検討する必要がある。